

荻原小学校 〈津波避難訓練〉

荻原小学校では、今年度初めて津波浸水想定区域外までの避難訓練を実施しました。荻原小校区の自主防災会役員などにも参加してもらい、およそ3kmの道のりを歩きました。また、各チェックポイントでは、「西尾市防災アプリ」を活用し、実際の浸水深を確認しました。出発地点（学校）で「2m」の浸水深を示していた防災アプリが、目標地点（浸水想定区域外）で「0m」になることを確認すると、多くの児童が安心した表情を見せました。

訓練後には、「実際に避難する時はもっと時間がかかると思うから、いろんな避難経路を確認しておくことが大切」

「家族で集合する場所を決めておきたい」「本当に津波が来たら、周りの人に声をかけて逃げたい」などの感想が聞かれ、津波避難を自分事として考える機会となりました。



アプリで浸水深を確認しながら避難

吉田小学校 〈様々なケースを想定した津波避難訓練〉

吉田小学校では、津波から命を守るために、様々なケースを想定した避難訓練を実施しています。

- ・吉田小校区訓練に合わせて、地域の方と一緒に津波浸水想定区域外まで避難
- ・近くの高台（小山田）へ避難（※橋が渡れることを想定）
- ・授業公開時における垂直避難（※多数の避難者がいることを想定）

児童には、「様々な避難方法を知ること、いざという時の適切な判断につながる」「一度でもやったことがあるという経験は、いざという時の力になる」と伝えました。



浸水想定区域外まで避難



近くの高台へ避難

白浜小学校 〈年間11回の避難訓練〉

白浜小学校では、教職員の誘導・指示に従う避難訓練から、放課や帰路など様々な場所での避難訓練、さらに児童に知らせず抜き打ちで実施する避難訓練など、回数に合わせてレベルアップを図っています。

また、被災時に校舎の上階に避難すると海水に浸かり孤立する可能性があるため、学校から500mの距離にある高台（正法寺山）や、それより遠いリゾート施設（避難所）まで避難する訓練を実施しています。

さらに、6年間を見通した系統的な防災教育を継続的に実践し、「自分の命を守る力」を育てています。



下校時の避難訓練



保育園と合同訓練

横須賀小学校/津平小学校 〈防災学習〉

吉良地区の中でも、横須賀小学校と津平小学校は、津波浸水想定区域外に位置しているため、津波災害が発生した場合は両校とも避難所となります。

横須賀小学校では、今年度、市が横須賀小学校の敷地内に設置した「災害用トイレ」について、説明・見学する時間を設けました。児童からは「普段使っているトイレに近くて安心した」との感想が聞かれる一方で、「災害時に贅沢は言ってもらえない」と、素直な感想もありました。実物を見学したことで、避難所での生活をイメージすることができました。

津平小学校では、新聞紙を使った避難所簡易グッズ作りを実施するなど、災害時に「自分たちにもできることがある」ことを学ぶことができました。



災害用トイレの見学（横須賀小）



スリッパや食器を作成（津平小）

